



同じスペクトラムの中で

横山 麗乃

研修旅行前、タイについて調べる機会があった。首都バンコクには何車線もある広い高速道路が走っていて、高層ビルや巨大な電子看板がいくつも立ち並び、羽田空港と同じくらい広い空港もあるらしい。

実際、調べたことはどれも本当で、タイはもはや発展途上国ではないのではないかと内心思った。しかしそれは甘い認識だった。ダウンタウンから少し離れたところで目の当たりにした強烈な光景。スラム街は路上生活者であふれ、下水のにおいが立ち込めていた。観光地のタイという表の面しか私は見ていなかったのだと痛感した。現地に入るとすぐにその気づきがあったからか、様々な場所を訪問した中で一番心に残ったのは APCD（アジア障害者支援センター）と第一特別支援教育センターの見学だった。そこで「障がい者も健常者も同じスペクトラムの中において、その位置が人によって違うだけ」という考え方にふれたからだ。タイでは障がい者への支援を定めた制度や法律はないが、車いすの人が電車に乗るときは当たり前のように乗客が乗車の介助をするそうだ。日本のように制度や法律はなくても、助け合いの精神で行動するタイ人。助け合うのは同じスペクトラムの中にいるという考え方が反映されているからではないだろうか。

私たちがタイから学ぶことはたくさんあるようだ。国際協力に関しても草の根交流を通しての相互理解を土台とし、同じスペクトラムの中で異なる位置にいる相手を思いやり、何が相手にとって最善の国際協力なのかを模索し行動することが大事だと気付いた。

タイ研修を通して新たに1つ目標ができた。それは大好きになったタイにまた帰ってくることだ。学校訪問でできたタイの友人にも会いたい。今度は国際協力を担う STEM 教育を推進する教師、そして研究者の一人として。